

鈴木 貴久先生 : New Engl J Med(2010)362:779-789

“ショックにどちらを使いますか？ ドパミン vs ノルアド”

Comparison of dopamine and norepinephrine in the treatment of shock.

【背景】ショックの時の昇圧の first line に何を使うべきかという議論は、実は未だ確立していない。今回、ドパミンとノルアドのガチンコ対決が行われました。

【方法】1679 名のショック患者の最初の昇圧治療として、①ドパミンを 20 μ /kg/分まで、②ノルアドレナリンを 0.19 μ /kg/分まで治療し、①②でダメならオープンラベルでノルアド、ポスミン、バソプレッシンを加えることが可能なプロトコールで、28 日目の死亡率を primary endpoint に検討が行われました。

【結果】60%以上の患者が septic shock、続いて心原性(15-17%)、hypovolemic(15-16%)であり、28 日後の死亡率は ドパミン 52.5% vs ノルアド 48.5%で両者に有意差を認めませんでした。有害事象として、心房細動を主とした不整脈の発現がドパミン群で有意に高く、サブグループ解析では、心原性ショックに対し、ノルアドの治療が、ドパミンに比べ優位性が証明されましたが、septic、hypovolemic shock では両者に差を認めませんでした。

【結論】ショックに何を使うかは、循環動態、腎血流、免疫機能などの面からいろいろと議論がなされてきましたが、心原性ショックに関しては、ドパミンよりノルアドの方が first choice として優れているというのが今回の大規模研究で明らかになりました。(文責 阿比留)